



Rotary

第2730地区

宮崎中央ロータリークラブ

ROTARY CLUB of MIYAZAKI-CHUO



# 週報

今月のテーマ 水と衛生月間

第1425回例会

2016年3月31日 Vol.30/No.36

## ■本日の例会

第1426回 平成28年4月9日(土)

- 創立30周年記念式典

## ■前回の例会

第1425回 平成28年3月31日(木)

- 会長・幹事・各委員会報告
- 30周年記念例会について  
…平沼正二 実行委員長
- 会員卓話…秦喜八郎 会員

## 【出席率状況報告】

- ・会員数 56名
- ・出席者 45名
- ・欠席者 11名
- ・出席率 80.36%
- ・1/170補正出席率 89.09%

## ■会長挨拶

会長 藤原昭公



皆さん、こんにちは。

30周年記念式典がいよいよあと9日と迫ってまいりました。

平沼実行委員長をはじめ実行委員会の皆様の準備も着々と進んでいるようで大変心強く思っています。お忙しい中、本当にご苦労様です。後ほど、委員の皆様から、担当別に確認事項についてお話があります。また、秦初代会長はアメリカでのRI規定審議会に出席されるため、残念ながら式典には出席できないとのこと。今日はメインプログラムとして秦初代会長の30周年に向けての想いをお話して頂きます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、今朝の毎日新聞に掲載されたがん対策基本法の改正についてお話いたします。この法律は、10年前に成立していますが、がん患者で仕事を辞めた人は03年、13年のいずれも34%と、法施行以来まったく改善していません。このため、改正案は「事業主の責務」を新設し、企業が雇用継続に配慮するよう努めるとともに、国や自治体に必要な措置を講じるよう定めています。これは、事業主に雇用継続の努力をすることを定めたということであって雇用継続を義務付けたものではありません。

しかし、今や「がん」は不治の病ではなく、働きながら治療することができます。雇用を継続することにより、がん患者は経済的な不安を抱くこともなく、安心して治療を受けながら働くことができます。企業側としては治療に要する時間に便宜を図るなど配慮しなければならないため、多少の負担を強いられることにはなります。しかし、優秀な人材を失うことなく他の社員のモチベーションアップにも繋がることとなります。がんは

三大国民病の一つです。がん患者の皆さんに希望を与えるとともに、優秀な人材を確保する意味でもがん患者の雇用継続は企業としてぜひとも取り組むべき課題だと思います。

## ■幹事報告

幹事 田中 寿



①4月からのロータリードレート116円に変更です。

②4月10日のRYLA(延岡での開催)に竹内会員(トップツアー)の社員が出席して頂けることになりました。ご協力ありがとうございます。

## 会員卓話

秦喜八郎 会員



①われらいずこより来たりや

ロータリーは御承知のように1905年2月23日、ポール・ハリスの提唱によりシカゴに誕生しました。会員の親睦と相互扶助を目的に発足しましたが、1908年には公共への奉仕に目覚め、シエルドンの奉仕理念(職業奉仕)を得てクラブ拡大が始まり、全世界に広がりました。初期の理念についてはロータリー通解(1916、ガハガンデイカー)にまとめられています。1921年のエジンバラ大会においては、「国際間の平和と親善」が綱領に採択されています。その間社会奉仕活動をめぐって個人奉仕か団体奉仕か、精神的か金銭的奉仕か、クラブ主導かRI主導かを巡って議論が沸騰し、1923年セントルイス大会の「決議23-34」によりようやく落ち着いたとされています。1927年のオステンド大会において四大奉仕の原型が出来上がっています。(ロータリー解説、ピビアン・カーター) 東京ロータリーは奉仕、奉仕の議論の最中に(1921年10月)創立され、1923年関東大震災時

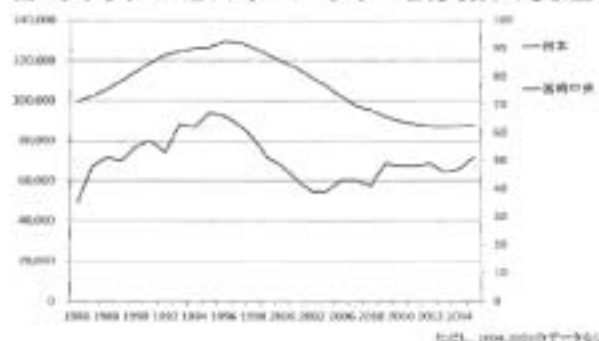
に世界中から寄せられた義捐金により存在証明が得られたと云われています。戦後1949年に日本のロータリーの国際復帰が成り、1953年に宮崎RC（神戸RCスポンサー）が発足し、1986年4月10日宮崎RCをスポンサーとして、市内全クラブ（西、北、南）の支援により宮崎中央RCが誕生しました。県下初の宮崎市全域をテリトリーとする二階建てロータリークラブでした。

②われら何処にありや

28名のチャーターメンバーのうち、日高（海）会員、烏山会員、三輪会員、長岡会員と小生の4名がクラブに在籍しています。特別代表は柏原利忠さん（第29代宮崎RC会長）でした。その教えは万民平等のロータリークラブであり、「入りて学び、出でて奉仕せよ」、「本を読め、人格を陶冶せよ」であり、多大の感銘を受けました。

爾来30年、日本の会員数129,000名の時には、当クラブも67名の会員を数え、さまざまな活動を行ってきました。

宮崎中央RCと日本ロータリー会員数の変遷



職業奉仕の宮崎クラブ、親睦の西クラブ、理念の北クラブ、地域奉仕の南クラブの特色あるクラブの中で、RA、IAの同時提唱、トライアスロン支援、ひむかカルタ、バージニアビーチRCへの訪問交流、台湾龍山クラブとの留学生交換、ネパール支援のマッチング・ブランドの諸事業は、青少年奉仕、国際奉仕に強味を持つクラブとしての足跡だと思えます。この間の国際ロータリーの主な出来事としては、1986年ポリオ・プラスプログラムの採用、1989年女性入会の許可、2002DLPの義務化、2004CLPの推奨、2010RI新戦略計画、2013に財団未来の夢計画など、大きな変革が行われています。

### ロータリーの主な出来事（1986-2016）

- 1986 手続要覧に決議23-34再収録  
ポリオ・プラス・プログラム
- 1989 女性入会の認可、「超我の奉仕」第1標語  
「最もよく奉仕する者 最も多く報いられる」  
第2標語
- 1992 クラブエレクトのPETS、地区協議会出席を義務化
- 1995 ポリオ撲滅をRIの最優先目標とする
- 2001 同一職業分類も5名以内可、RI会長、エレクトへの一定額の金銭の支払いを認める
- 2002 DLPの義務化
- 2004 RI会長及びエレクトへの金銭支払いを廃止  
CLPの推奨
- 2008 会員の資格要件に地域社会活動家を認める  
標準クラブ定款に四大奉仕部門を明記する
- 2009 RIを当地区採用
- 2010 四大奉仕に新世代を含め五大奉仕とする  
人頭分担金3年間毎年0.5ドル引き上げる  
決議23-34の第1項を奉仕哲学の定義に使用する
- 2010- RI新戦略計画
- 2012-13 ロータリーの綱領を目的へ、日本語訳の変更
- 2013- R財団未来の夢計画

③われら何処に行くや

ロータリー運動は、今何回目かの曲り角にあると考えています。ある意味混乱期にあります。RI会長経験者の言によれば、「21世紀にはいつかのロータリー先進国での会員減少に危機感が強く、あらゆる可能性を試している」とのことでした。規定審議会でも前回2013年に決定された事への反対提案が今回出て来ています。一方で前回否決された立法案と同じ趣旨の提案が再提出されています。十分に世界の潮流を探って来たいと思っています。30周年を迎えて3つの提案があります。1つは藤原年度に60名を達成させましょう。2つは香川年度に、クラブが30年やり残していること、新クラブ（子クラブ）の創設をしましょう。3つは30年のあゆみをすべて洗い直して、新しいクラブ戦略計画（5年計画）を作りましょう。

最後に30年を振り返って、ロータリーを通じて多くの方々に出会い御指導を受けた事に感謝の念でいっぱいです。何か恩返しをしたいと考えています。この機会をいただいた平沼30周年実行委員長、藤原会長、会員の皆様へ感謝します。

### 発行/ 宮崎中央ロータリークラブ

- 事務局 〒880-0804 宮崎市富田町10-25 富田町ビル TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-0288
- 例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30~13:30)
- 会長/藤原昭公 副会長/香川美穂子 幹事/田中 寿  
クラブ会報委員会/委員長:新地康宏 副委員長:江口徹一 委員:鈴木克信、長友久人、川崎孝幸、山田知樹、生駒俊明